

PHR 協会 IHMS 委員会議事録(案)

日時:2020 年 2 月 18 日(火)15 時~17 時 場所:リロの会議室飯田橋

出席者:web 会議 前田(人間環境大)、細羽、大林、毛利

リアル会議: 鈴木淳夫、藤井田、窪田(コニカ)、森口記(順不同・敬称略)

- 主な議事:1. PHR協会の戦略会議等の報告
2. PHR サービス事業者アンケート(案)について(続)

(事務局より)

今回より Zoom での Web 会議を実施、何の問題もなかった。

今後とも、Zoom で会議を実施する。既に、年契約完了。

1. 議事内容(司会 鈴木淳夫・森口)

(1) 前回議事録をベースに議事を進行

(2) 活発な会議となった。

a. (コニカミノルタ)よりIHMS委員会向けに最近の PHR 関連の Topics を共有

(2 月 13 日 13 時 9 分付 I H M S 委員会メーリングリスト参照)

・ Am a z o n, Amazon Care,Healthcare Navigator,Alexa,

・ Google 数千万人規模の医療データ収集

・ 医療介護、「対面原則」見直し デジタル対応議論

...

b. 今回より大府の人間環境大学の前田先生が参加。

(3) 森口より 1 月 24 日の PHR 協会内戦略委員会・1 月 28 日の産業医大での限られた理事メンバーでの会議の報告があった。

a. ホームページの担当を阿部から織田に引き継ぐことになった。

遅くとも3月中には移行を行う。

b. 来期の活動では、5月の産業衛生学会(森口の口演、大神先生主宰の自由集会)

で、PHR協会としての活動を予定する。5月14日:旭川

c. 11月の医療情報学会でのチュートリアル等の参加を検討する

d. 医療職向け中心の委員会を織田を中心に新規に立ち上げる

茨城県西部医療センターの梶井先生の地域医療への事例を本格的に検討する。

そのうえで、地域医療へのPHRの貢献について検討を進める。

e. PHRのアンケートの実施については、個別ではなく、より広く、アンケートを行うべきとの意見が出された。その上で、

① アンケートはPHR協会の今後の目標を決めるための参考とすべき。

② アンケート先への案

・5月の産業衛生学会での講演の参加者(主に産業医の先生)、

・全衛連・中央会等の健診機関団体への依頼の案

・企業向けには、IHE協会JAHIS等への協力依頼

などが案として挙げた。

(4) アンケートのための検討内容:

a. 戦略委員会での、より広い相手にアンケートを行うことになった。

b. 一つの考えとして、個人へのアンケートを考える案が出された。(前田)

・アンケート対象として、健診・健康管理の場合、事業主/保険者 が

対象者になる。

- ・母子手帳データと特定健診をつなぐPHRに関するアンケート
 - ➡ マイナポータルに入ったデータをPHR事業者につなぐ部分の検討状況の確認要
- ・母子手帳を受ける人と特定健診の受診者、病院にかかっている人 の
PHR 化への期待のアンケート
- ・PHR本人の幅が広い ➡ どこで誰にアンケートを取るか？
会議中に、窪田が電子母子手帳に関する検索実施
Docomoがやっているらしい。

c. 森口の「PHRに関するアンケートのお願い」を説明、検討依頼

①アンケートの構成

- ・はじめに:このアンケートの主旨
- ・「PHR協会の考えるPHRとは」で紹介
PHR サービス事業者とその関連産業 は、説明が必要
- ・「PHR に関するアンケート」
 - ・回答者の立場の明確化 (①～④)
 - ・PHRサービスの概要 (⑤～⑧)
 - ・PHRサービスの主な機能 (4～11)
 - ・今後の予定 (第3項)

③ アンケートの対象者の案

案1：学会場でのアンケート

- ① 産業衛生学会は参加者は企業産業医・健診機関職員が主体
- ② 医療情報学会では参加者は医療情報技師、医療情報部員、
企業エンジニアが主体

案2：ホームページ活用 of アンケート

案3：ベンダ企業へのアンケート：JAHIS・IHE 協会へ委嘱

案4：健診機関へのアンケート：

後日、細羽・森口で独自にアンケートの案を検討したので、
議事録案には、さらに一歩すすんだアンケート案を添付する。

次回：3月18日(水)時間同じ 場所は新橋付近のリロ会議室

[参考資料] : 各氏とのメールやり取りを取り纏め

1. (大林)SHACHI(千葉県)

調査内容が技術面からは古いが、「12社が協業」が特徴
この一つの業務に複数の事業者が携わっている協業の部分に興味がある。単一の企業が携わっているのではなく、複数企業が競い合いつつ事業を行うこと、この形が、通常の実世界での業務の形。

2. (鈴木淳夫)Google Healthは、Health Vaultに組織替えした。 Amazonも、何度も取り組みと撤退を繰り返している。

3. (森口)匿名加工情報に関して

12月19日に京大吉原博幸先生の関連の(一社) ライフデータイニシアティブが「認定匿名加工医療情報作成事業者」に認定。
<https://www.ldi.or.jp/news>

4. (筒井)調査対象資料

① RABLOCKING.

J-DOME: ブロックチェーンを使ったシステム

<http://www.mewca.jp/wp-content/uploads/2019/03/190304-2.pdf>

J-DOME:「日本医師会 かかりつけ医 糖尿病データベース研究事業(J-DOME)」

目的: かかりつけ医が診る糖尿病患者さんの診療データを収集し糖尿病患者の実態を把握すること。

そして、解析結果を先生方の日常 診療に役立てていただくこと。

<https://www.jdome.jp/>

② 日経デジタルヘルス記事:

ブロックチェーンを使った PHR を運用し始めたのが、Arteryex(東京都港区)だ。

健康管理アプリからアップロードしたデータをブロックチェーンで管理するもので、健康・医療関連データの二次活用も視野に入れている。

「企業や研究機関からデータ提供の申し出があった際に、利用者が自らの許諾で匿名または実名でデータ提供し、その対価を得られる仕組み」(水島氏)だという。

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/event/15/101000173/103000041/?ST=health&P=3>

③ 医療 × ブロックチェーン 日本医療ブロックチェーン協会、発足

ブロックチェーン、VR、AI などの IT を駆使して、患者さんに、より良い医療と医療者に、幸せを提供すること

https://medical-leap.com/2017/11/13/japan_medical_blockchain_association_start/

④ Arteryex

レセプトデータの利活用だけでなく、電子カルテに保存されている RWD(リアルワールドデータ)と組み合わせたり、IoT デバイスから取得できる普段の健康データまでもが紐づけられる

<https://www.arteryex.biz/>

⑤ MediBloc

医療情報分野への活用について 患者による医療健康情報の制御 PHR → 受診時の利用

<http://jami.jp/about/documents/Blockchain2.pdf>

⑥ GMO インターネット株式会社

医療カルテ共有システム(医療機関ごとに分散されていた情報を、患者ユーザー本人が権限を与えた医療機関内で共有閲覧・書き込み可能となるシステム)

導入する医療機関が全国的に拡大していくことで、ユーザーが権限を付与すれば、医師が病院内の端末からユーザーの過去の病歴やアレルギー、服用している薬などを的確かつ速やかに把握可能となり、診療に役立てることができる

<https://www.gmo.jp>

5. (鈴木淳夫)

A. 富士通総研主催の「日米における PHR と医療の近未来図」(10年前)

メインスピーカーはジョン・D・ハラムカ氏(当時の Google Health アドバイザー)、日本側は当時の日本版 EHR の取りまとめを行っていた田中博先生

<https://www.fujitsu.com/jp/group/fri/resources/events/conference/conference-18-1.html>

富士通総研からの研究発表は松山さんと江藤さん。

松山さんはキャノングローバル戦略研究所、江藤さんは(株)ドリームインキュベータ・インド(社長)に転職。(資料がダウンロード可能なのはお二人の講演だけ)

パネリストのメンバー:

清水先生は島根県立病院から静岡県立病院に移動、

牧野先生は副院長から院長に昇格。

森口は、5月の産業衛生学会(旭川)向けに論文を提出。織田先生・筒井先生・細羽先生に共同発表者をお願い。採が決定の場合、面談が可能か?

最後にアンケート結果掲載: 具体的行動とどう結びつけるかについては現在まで続く課題

B. (森口) 昔のテーマの今は?

(1) 社会保障カードはまだ生きている。

(2) 電子私書箱はまだ生きているか?

(3) 地域中核医療機関の EMR 化はかなり進んできた

(4) 米国の EMR が米国外の、例えば、インドなんかのクラウド上におけるのか?

・HIPAA ないし HITECH 法では、国外サーバ禁止令はあるのか?

<https://aws.amazon.com/jp/compliance/hipaa-compliance/>

(5) EMR と PHR の関係性

・松山氏の EMR の講演では、PHR との関連を述べており、2つの相違というよりも、関係性を調査すべき?

・(藤井田) Mayo Clinic と Google の EMR は、PHR を見据えたものか?

<https://japan.zdnet.com/article/35142594/>

C. (鈴木淳夫) 今年度のAMEDの動向

政府関係の PHR 絡みの調達が三省に分かれて実施。どれも野村総研が落札?

この結果をもとに来年度の政府の政策に反映されるかも?

・厚生労働省事業

我が国における PHR の在り方に関する調査等一式

<https://www.mhlw.go.jp/sinsei/chotatu/chotatu/wto-kobetu/2019/05/wt0513-04.html>

・総務省事業

PHR サービスの普及促進にかかる調査研究の請負

・経済産業省事業

我が国の PHR の利活用・事業創出の推進に向けた調査

D. (鈴木淳夫) 最近の PHR に関する研究(AMED が今年3月に行った発表会の模様)

https://www.amed.go.jp/news/event/page_000001_01028.html

「(PHR) 利活用研究事業」

・PHR-3 の MEDIS 山本理事長の内容は分担研究者が九大の中島先生(今年6月 JAMI 春季大会での PHR チュートリアルで言及された内容)

PHR-1 妊娠・出産・子育て支援 PHR モデルに関する研究

前橋工科大学 システム生体工学科 松本研究室 研究協力員 本村 信一

PHR-2 介護予防政策へのパーソナル・ヘルス・レコード(PHR)の利活用モデルの開発(0:02:25)
千葉大学 予防医学センター 教授 近藤 克則

PHR-3 医療保険者・疾病管理事業者・医療機関等が連携した生活習慣病重症化予防サービスの
標準化・事業モデル創出を目指した研究(0:10:08)
医療情報システム開発センター 理事長 山本 隆一

PHR-4 医療・介護連携 PHR モデルに関する研究
山梨大学 総合研究部 教授 佐藤 弥

PHR-5 臨床および臨床研究のための分散 PDS の応用に関する研究(0:18:37)
東京大学 ソーシャル ICT 研究センター 教授 橋田 浩一

PHR-6 臨床および臨床研究の充実のための本人に関する多種多様な情報のデジタル化・ネット
ワーク化及び統合的な利活用を可能とする基盤技術に関する研究(0:27:21)
佐賀大学 救急医学講座 教授 阪本 雄一郎

動画 <https://www.youtube.com/watch?v=Qe0MpAFsjG4>

—以上—